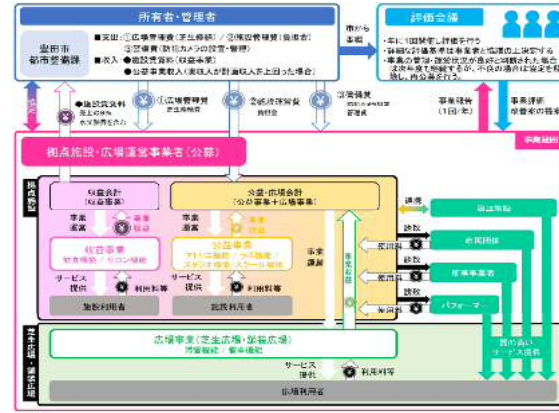


# 豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業実績

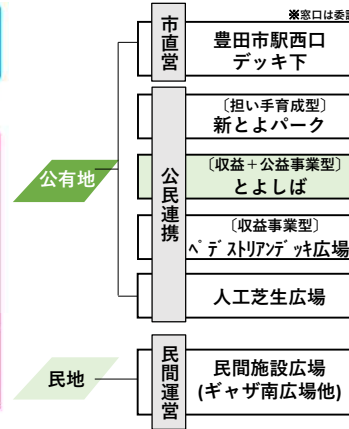
**名称** : 豊田市駅東口まちなか広場 (とよしば)  
**所在地** : 豊田市喜多町2丁目166番地  
**面積** : 約1,140㎡(芝生広場約560㎡、舗装広場約430㎡、拠点施設150㎡)  
**使用時間** : 終日 (占用利用は7時から23時/音の出る行為は21時まで)  
**事業期間** : 2019年9月20日～2023年3月31日  
**事業者** : 有限会社ゾープランニング  
 (協同事業者: 株式会社こいけやクリエイト)



## 事業スキーム

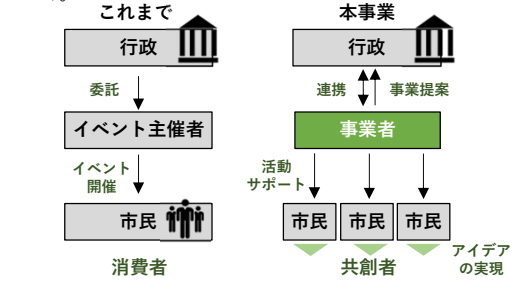


## まちなか広場の分類



## 新たな公民連携モデルの構築

公的負担や公的大型イベントによる一方的なサービス提供ではなく、市民や民間が自ら主体となってまちにフィールド自体を作り出す双方向の関係性が見られた。消費者としての市民ではなく共創者としての市民が生まれたことは、日常的で持続可能な活用につながっていく。



## 豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業の経緯

**2015** 計画

**2015～17**

- 豊田市都心環境計画
- あそべるとよたプロジェクトペデ広場事業者公募事業
- 豊田市都心地区空間デザイン基本計画

公共空間活用『つかう』と再整備『つくる』の両輪で取組を推進することを記載した「都心環境計画」を2016年に策定。「あそべるとよたプロジェクト」ではまちなかの使われていない広場を開放し、市民のアイデアを実現しながら、使いやすい広場に変えていく仕組みを構築し、その取り組み成果を踏まえデザイン基本計画を作成・公表した。ペデ広場での飲食販売・活用コーディネート事業者の発掘と事業性の検証は「収益事業型」として分類された。

**2017**

**2019.9** **2019.9～2023.3【本資料の記載範囲】**

**豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営管理事業**

将来の豊田市駅東口駅前広場の在り方を具体的に検証するための実証実験(実験期間は3年7か月)として、銀行跡地に時限的に拠点施設及び芝生・舗装広場を整備し、右に示す検証を実施した。

**検証活用**

**2023.3**

**2023～**

**設計・施工**

豊田市駅東口駅前広場本格整備

**1 豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業における事業目的**

- ①将来に向けた人の滞留や賑わい創出
- ②市民・民間事業者のアイデアで「フィールド」自体をつくりだし、まちなかで育ってきたプレイヤーに多様な活躍の場を提供できる環境づくり
- ③「収益事業型の広場の運営・管理モデル」を發展させ、「プレイヤーを束ねるマネージャー」を軸とした公益事業を行うことで、相乗効果を生みながら都心の広場運営における新しい公民連携モデルの実現

**2 豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業における検証結果** (詳細は次頁に記載)

※事業期間のほぼ全てがコロナ禍であり、計画通りの運営を行うことが困難な中で運営事業者の創意工夫と協力によって事業と検証が成立した。

【凡例】○: 事業期間内において十分な成果が得られた △: 成果はあったが本整備では改善が必要 ×: 成果が得られなかった

検証内容	目的①② 人の滞留・にぎわい創出			目的③ 持続的な運営
	<b>A: 滞留行動創出</b> ・空間の維持管理 ・スタッフの常駐	<b>B: 促進機能の検討</b> 飲食機能+αの滞留動機の創出 (トリエ・ラボ・スタジオ・広場)	<b>C: マネージャー等の育成</b> ・自主企画開催 ・スクールプログラム実施	<b>D: 事業採算性の検証</b> 収益事業の利益による公共事業への再投資
検証結果	<b>A: プレイス調査</b> ○ 日常の滞留が創出 ※工事期間は周辺広場の連携が必要	<b>B: 機能別利用実績把握</b> △ 収益面で課題が残る	<b>C: 人的ネットワーク把握</b> ○ プレイヤーのネットワークが創出 ※ネットワークが定着するか否かは、引き続き中長期での検証が必要	<b>D: 事業収支把握</b> △ 公益事業の一部を賄うことは可能 ※公益事業への再投資をどこまで求めるか検討・調整が必要
	反映形への	<b>①滞留空間の確保</b> (検証結果A・Bより) ・多様な属性に対し日常の滞留空間を創出	<b>②収益事業拠点の設置</b> (検証結果A・B・Dより) ・安全安心な滞留のための治安対策 ・プレイヤーの交流や活動の芽生えの促進 ・安定的な収益を得ながら広場を運営	<b>③人材確保・運営スキームの確立</b> (検証結果B・C・Dより) ・収入を得ながら継続的な事業展開を生むスキームとして、指定管理者制度等を検討 ・公的負担と、貸出料金の収入、収益事業の収入で運営するスキームを想定

**3 本事業がもたらした価値**

<b>環境価値</b> 日常の居場所創出	<b>利用価値</b> 多様な滞留行動・多数の利用者・幅広い世代の利用	<b>印象価値</b> 利用者・地域住民のシビックプライド醸成	<b>社会的価値</b> 人的ネットワークの創出
-------------------------	--	------------------------------------	-----------------------------

・事業期間の大半がコロナ禍による影響を受けたものの、上記のような公共的な価値が生まれたことは大きな成果であった。

**4 今後に向けて**

- ・豊田市駅東口駅前広場の将来形に向け、整備内容を検討する際に本事業の検証結果を活用し、豊田市駅東口駅前広場整備事業を進めていく。
- ・豊田市駅東口駅前広場整備事業は、計画から設計・施工段階までの長期間に及ぶため、行政内部での一貫したビジョンの遂行・共有が必要である。また、事業の経緯や目的について、地域住民や周辺事業者と意識共有を図ることが重要である。

# 豊田市駅東口まちなか広場拠点施設運営・管理事業実績

## A 滞留行動創出

### 実施内容

- ・空間の維持管理
- ・スタッフの常駐、日常的なコミュニケーション

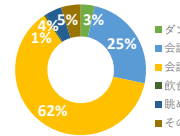
### 検証結果

- ・多数の利用者数、多様な滞留行動、幅広い世代の利用、1日を通じた滞留が創出され、特に若年層の利用が多く生まれた。
- ・コロナ禍でも多くの日常利用が見られ、設置目的に即した効果を生んでいた。
- ・とよしば整備前と比較すると会話など他者の存在を前提とした社会活動が生まれた。

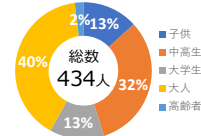


### ■プレイス調査結果 (春夏秋冬合計値)

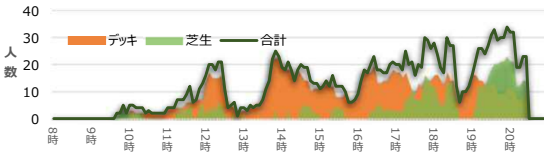
#### ①滞留行動の多様性



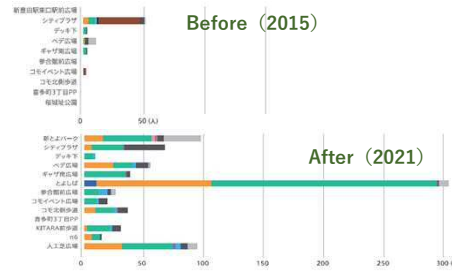
#### ②年代別利用者数



#### ③利用者数推移



### (とよしば整備前と整備後の比較)



あそべるとよたプロジェクト開始前のまちなかの状況と比較して、以前と異なる滞留行動が生まれ、利用者数も増加している。

## C マネージャー等の育成

### 実施内容

- ・自主企画開催
- ・スクールプログラム実施

### 検証結果

- ・事業者の自主企画への参加、スクールプログラムを通じて、新たな企画の開催や、マネージャーのもののプレイヤー発掘に繋がった。
- ・人的ネットワークを築ける運営事業者と連携することはプレイヤーの発掘や人格育成に大きな効果があった。
- ・短期間での人材育成は困難な部分もあるため、将来的には事業評価の仕組み改善と合わせた検証が必要である。



### ■人的ネットワークの創出

人的なネットワークの広がり、他広場・施設との連携が、人や空間をつなぐ「まちづくりのハブ」のような役割を果たしている。

### ■スクールプログラム開催実績

11企画/17人 (企画開催数/受講者数)



**運営事業者：街を代表するプロデューサー的な存在**

**【マネージャー的人材・組織】**

- ・運営事業者の人間でつながる
- ・広場でプレイヤーを募っての自主企画を主催
- ・主に過去の事業実績が影響

**【プレイヤー的人材・組織】**

- ・マネージャーの人間でつながる
- ・広場でプレイヤーとして企画に参加、主催
- ・主に人材育成事業が影響

**【新たなプレイヤー候補】**

- ・プレイヤーの人間でつながる
- ・広場での企画に協力、関心を持つ人、組織

**【ファン・サポーター】**

- ・とよしばでの企画、とよしばで活躍するプレイヤーを応援する人・スポンサー

## B 促進機能の検証

### 実施内容

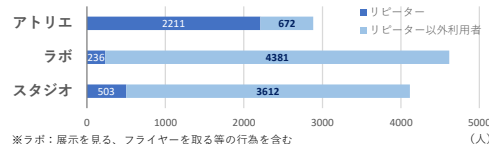
- 飲食機能+αの滞留動機の創出
- ・アトリエ (工作室)
- ・ラボ (ギャラリー)
- ・スタジオ (貸室)
- ・広場

### 検証結果

- ・各機能は一定の需要があり、多様性に富んだ企画内容が創出された。特に芝生は多くの支持が得られていた。
- ・「スタジオ」、「広場」は一般貸出が多かった。また、収入に関しては「広場」と「スタジオ」機能の収入が多く、公益事業収入の軸となっていた。
- ・アトリエやラボは収益性が低いため、収益確保の手法を検討する等、設置の必要性も含め整理が必要。

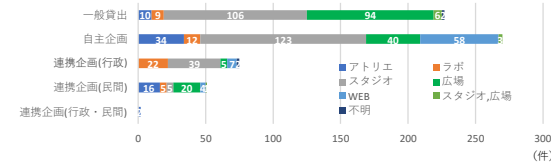


### ■利用者数(2019.9-2022.12)

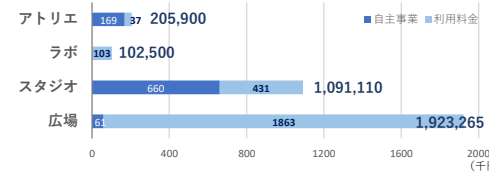


※ラボ：展示を見る、フライヤーを取る等の行為を含む  
※アトリエ：ホコタッチ計測者を含む

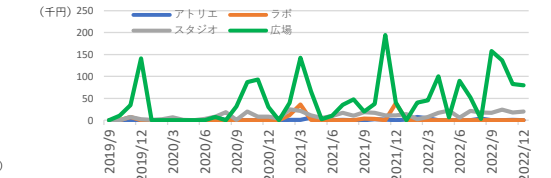
### ■貸出・企画数(2019.9-2022.12)



### ■公益事業収入(2019.9-2022.12)



### ■公益事業利用料金推移



## C マネージャー等の育成

## D 事業採算性の検証

### 実施内容

- 屋内外客席での飲食提供による利益を公共事業に再投資

### 検証結果

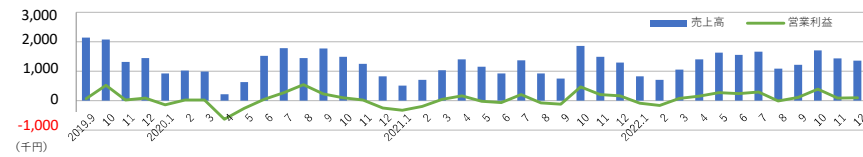
- ・収益事業において公的負担を入れずに独立採算で運営することは可能であった。
- ・収益事業の利益の一部を公益事業に再投資しているものの、公益事業の負担金全てをまかなうことは困難であった。



### ■収益事業収支

(2019.9-2022.12)

コロナ禍においても公的負担を入れずに独立採算で事業運営することができた。



### ■公益事業への還元

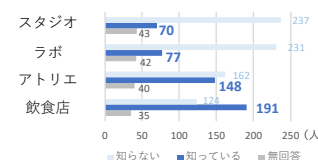
収益事業の利益をマルシェ用のテントや、スクリーン等の固定金具等の備品の改良、運営費用等に充当してした。



テントの利用風景  
テント改良に際し地元事業者を訪問

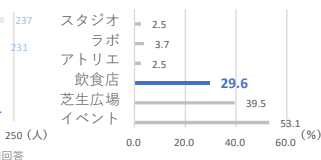
### ■認知度(参考)

(利用者アンケートQ10、N=350)



### ■来場動機(参考)

(市民アンケートQ15、複数回答、N=81)



各機能の認知度は飲食店が最も高く、来場動機も3番目に回答が多い。飲食機能があることで公益機能も含めた施設の認知向上に貢献している。